(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7607147号
(P7607147)

(45)発行日　令和6年12月26日(2024.12.26)

(24)登録日　令和6年12月18日(2024.12.18)

(51)国際特許分類		FI		
Ｂ６２Ｊ　9/10　(2020.01)		Ｂ６２Ｊ	9/10	
Ｂ６２Ｊ　23/00　(2006.01)		Ｂ６２Ｊ	23/00	F
Ｂ６２Ｊ　17/00　(2020.01)		Ｂ６２Ｊ	17/00	

請求項の数　9　（全17頁）

(21)出願番号　特願2023-559438(P2023-559438)
(86)(22)出願日　令和4年8月30日(2022.8.30)
(86)国際出願番号　PCT/JP2022/032619
(87)国際公開番号　WO2023/084875
(87)国際公開日　令和5年5月19日(2023.5.19)
審査請求日　令和6年4月9日(2024.4.9)
(31)優先権主張番号　特願2021-182443(P2021-182443)
(32)優先日　令和3年11月9日(2021.11.9)
(33)優先権主張国・地域又は機関
日本国(JP)

(73)特許権者　000005326
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山二丁目１番１号
(74)代理人　110001081
弁理士法人クシブチ国際特許事務所
(72)発明者　井口 貴正
東京都港区南青山二丁目１番１号 本田技研工業株式会社内
(72)発明者　立石 康
埼玉県和光市中央１丁目４番１号 株式会社本田技術研究所内
審査官　中川 隆司

最終頁に続く

(54)【発明の名称】　収納部構造

(57)【特許請求の範囲】

【請求項１】

鞍乗り型車両（１０）の乗員用のシート（１７）の後方に設けられるシートカウル（５０）と、前記シートカウル（５０）の内側に設けられる収納部（５８）とを備え、車両側面視で前記シートカウル（５０）が後下がりに傾斜している収納部構造において、

前記シートカウル（５０）は、車体（５３）に取り付けられるベース部（５１）と、前記ベース部（５１）を上方から覆うカウル部（５２）とを備え、

前記ベース部（５１）は、底壁（５５）と、前記底壁（５５）から上方に延出して前記収納部（５８）を区画するリブ部（６０）とを備え、

前記リブ部（６０）は、車両前後方向に延びて前記収納部（５８）を左右方向に区画する左右一対の側壁（６１）を少なくとも備え、

車両側面視で、前記カウル部（５２）の上面（８０）は、後下がりに形成され、

車両側面視で、前記側壁（６１）の上縁（６１ａ）の少なくとも一部は、前記上面（８０）の内面（８０ｃ）に沿って後下がりに形成されていることを特徴とする収納部構造。

【請求項２】

前記側壁（６１）の前記上縁（６１ａ）は、前記内面（８０ｃ）に対し下方に離間していることを特徴とする請求項１記載の収納部構造。

【請求項３】

前記リブ部（６０）は、前記収納部（５８）を前方から区画する前壁（６２）と、前記収納部（５８）を後方から区画する後壁（６３）とを備えることを特徴とする請求項１ま

たは２記載の収納部構造。
【請求項４】
前記後壁（６３）の上縁（６３ａ）の少なくとも一部は、前記上面（８０）の前記内面（８０ｃ）に沿ってアーチ状に形成されていることを特徴とする請求項３記載の収納部構造。
【請求項５】
前記ベース部（５１）は、平面視において前記リブ部（６０）の外側で前記底壁（５５）の側縁部及び後縁部から上方に延出する外側リブ（５７）を備え、
前記カウル部（５２）の下縁部（８６）は、平面視において前記外側リブ（５７）の外側に位置し、前記外側リブ（５７）を外側から覆うことを特徴とする請求項１または２に記載の収納部構造。
【請求項６】
前記車体（５３）に前記ベース部（５１）を固定する締結具（６５，６６）は、前記リブ部（６０）と前記外側リブ（５７）との間に配置されることを特徴とする請求項５記載の収納部構造。
【請求項７】
前記ベース部（５１）は、前記シート（１７）の後面（１７ｄ）に後方から対向するベース部前壁（５６）を備え、
前記カウル部（５２）は、前記上面（８０）の前縁から下方に延出するカウル前面部（８２）を備え、
前記カウル前面部（８２）は、前記後面（１７ｄ）の後方で、前記ベース部前壁（５６）の上部に前方から重なり、
前記カウル前面部（８２）の下縁（８２ａ）は、前記後面（１７ｄ）の上端（１７ｅ）よりも下方に位置することを特徴とする請求項１または２のいずれかに記載の収納部構造。
【請求項８】
前記ベース部前壁（５６）と前記後面（１７ｄ）との距離（Ｌ１）は、前記カウル前面部（８２）の前縁（８２ｂ）と前記後面（１７ｄ）との距離（Ｌ２）よりも小さいことを特徴とする請求項７記載の収納部構造。
【請求項９】
車両側面視で、前記ベース部（５１）の前後の中間部、または前記中間部よりも後方に、前記カウル部（５２）と前記ベース部（５１）とを左右に締結する左右締結部（７１）が設けられることを特徴とする請求項１または２のいずれかに記載の収納部構造。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、収納部構造に関する。
【背景技術】
【０００２】
従来、鞍乗り型車両の乗員用のシートの後方に設けられるシートカウルと、シートカウルの内側に設けられる収納部とを備え、車両側面視でシートカウルが後下がりに傾斜している収納部構造が知られている（例えば、特許文献１参照）。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００３】
【文献】実公平０３－０５３９８３号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００４】
ところで、シートカウルの内側の収納部に物品を収納する場合、物品を良好に保持することが望まれる。また、車両側面視でシートカウルが後下がりに傾斜していると、収納部

に収納可能な積載量が分かり難く、収納部に物品を収納し難くなる。
本発明は、上述した事情に鑑みてなされたものであり、シートカウルの内側の収納部に物品を良好に保持し、且つ、収納部に物品を収納し易くすることを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００５】
この明細書には、２０２１年１１月９日に出願された日本国特許出願・特願２０２１－１８２４４３の全ての内容が含まれる。
収納部構造は、鞍乗り型車両の乗員用のシートの後方に設けられるシートカウルと、前記シートカウルの内側に設けられる収納部とを備え、車両側面視で前記シートカウルが後下がりに傾斜している収納部構造において、前記シートカウルは、車体に取り付けられるベース部と、前記ベース部を上方から覆うカウル部とを備え、前記ベース部は、底壁と、前記底壁から上方に延出して前記収納部を区画するリブ部とを備え、前記リブ部は、車両前後方向に延びて前記収納部を左右方向に区画する左右一対の側壁を少なくとも備え、車両側面視で、前記カウル部の上面は、後下がりに形成され、車両側面視で、前記側壁の上縁の少なくとも一部は、前記上面の内面に沿って後下がりに形成されていることを特徴とする。
【発明の効果】
【０００６】
シートカウルの内側の収納部に物品を良好に保持し、且つ、収納部に物品を収納し易くできる。
【図面の簡単な説明】
【０００７】
【図１】図１は、本発明の実施の形態に係る鞍乗り型車両の側面図である。
【図２】図２は、車体フレームの斜視図である。
【図３】図３は、シートの後部及びシートカウルの左側面図である。
【図４】図４は、シート及びシートカウルを上方から見た平面図である。
【図５】図５は、シートカウルの分解斜視図である。
【図６】図６は、図４のＶＩ－ＶＩ断面図である。
【図７】図７は、図４のＶＩＩ－ＶＩＩ断面図である。
【図８】図８は、カウル部を不図示にした状態でシート及びベース部を上方から見た平面図である。
【図９】図９は、図６においてシート後面に対しシートカウルが近接する部分を拡大した断面図である。
【発明を実施するための形態】
【０００８】
以下、図面を参照して本発明の実施の形態について説明する。なお、説明中、前後左右および上下といった方向の記載は、特に記載がなければ車体に対する方向と同一とする。また、各図に示す符号ＦＲは車体前方を示し、符号ＵＰは車体上方を示し、符号ＬＨは車体左方を示す。
【０００９】
[実施の形態]
図１は、本発明の実施の形態に係る鞍乗り型車両１０の側面図である。
鞍乗り型車両１０は、車体フレーム１１と、車体フレーム１１に支持されるパワーユニット１２と、前輪１３を操舵自在に支持するフロントフォーク１４と、後輪１５を支持するスイングアーム１６と、乗員用のシート１７とを備える車両である。
鞍乗り型車両１０は、乗員がシート１７に跨るようにして着座する車両である。シート１７は、車体フレーム１１の後部の上方に設けられる。
【００１０】
車体フレーム１１は、車体フレーム１１の前端部に設けられるヘッドパイプ１８と、ヘッドパイプ１８の後方に位置するフロントフレーム１９と、フロントフレーム１９の後方

に位置するリアフレーム２０とを備える。フロントフレーム１９の前端部は、ヘッドパイプ１８に接続される。
シート１７は、リアフレーム２０に支持される。
【００１１】
フロントフォーク１４は、ヘッドパイプ１８によって左右に操舵自在に支持される。前輪１３は、フロントフォーク１４の下端部に設けられる車軸１３ａに支持される。乗員が把持する操舵用のハンドル２１は、フロントフォーク１４の上端部に取り付けられる。
【００１２】
スイングアーム１６は、車体フレーム１１に支持されるピボット軸２２に支持される。ピボット軸２２は、車幅方向に水平に延びる軸である。スイングアーム１６の前端部には、ピボット軸２２が挿通される。スイングアーム１６は、ピボット軸２２を中心に上下に揺動する。
後輪１５は、スイングアーム１６の後端部に設けられる車軸１５ａに支持される。
【００１３】
パワーユニット１２は、前輪１３と後輪１５との間に配置され、車体フレーム１１に支持される。
パワーユニット１２は、内燃機関である。パワーユニット１２は、クランクケース２３と、往復運動するピストンを収容するシリンダー部２４とを備える。シリンダー部２４の排気ポートには、排気装置２５が接続される。
パワーユニット１２の出力は、パワーユニット１２と後輪１５とを接続する駆動力伝達部材によって後輪１５に伝達される。
【００１４】
また、鞍乗り型車両１０は、前輪１３を上方から覆うフロントフェンダー２６と、後輪１５を上方から覆うリアフェンダー２７と、乗員が足を載せるステップ２８と、パワーユニット１２が使用する燃料を蓄える燃料タンク２９とを備える。
フロントフェンダー２６は、フロントフォーク１４に取り付けられる。リアフェンダー２７及びステップ２８は、シート１７よりも下方に設けられる。燃料タンク２９は、車体フレーム１１に支持される。
【００１５】
図２は、車体フレーム１１の斜視図である。
鞍乗り型車両１０は、自動二輪車である。図１及び図２を参照し、フロントフレーム１９は、ヘッドパイプ１８から後下がりに後方に延びるメインフレーム３１と、メインフレーム３１の後端部から下方に延びる左右一対のピボットフレーム３２と、ヘッドパイプ１８から下方に延びるダウンフレーム３３と、ダウンフレーム３３の下端部から後方に延びてピボットフレーム３２の下端部に接続される左右一対のロアフレーム３４とを備える。
【００１６】
リアフレーム２０は、ピボットフレーム３２の上部から後方に延びる左右一対のシートフレーム３５と、ピボットフレーム３２においてシートフレーム３５よりも下方の位置から後上方に延びてシートフレーム３５に接続される左右一対のサブフレーム３６とを備える。
詳細には、リアフレーム２０は、シートフレーム３５の後部から下方に延びる板状のガセット３７を備える。サブフレーム３６の後端部は、ガセット３７を介してシートフレーム３５に接続される。
また、左右のシートフレーム３５の後端は、車幅方向（左右方向）に延びる後端接続部３８によって車幅方向に接続されている。
さらに、左右のシートフレーム３５の後部は、後端接続部３８の前方で車幅方向に延びるクロスメンバー３９によって車幅方向に接続されている。
【００１７】
ピボット軸２２は、ピボットフレーム３２に支持される。リアクッション４１の上端はガセット３７に連結され、リアクッション４１の下端はスイングアーム１６の後端部に連

結される。
鞍乗り型車両１０は、リアフレーム２０を車幅方向外側から覆うサイドカバー４２を備える。サイドカバー４２は、工具等を収納可能な小物入れ（不図示）を車幅方向外側から覆う。サイドカバー４２は、鞍乗り型車両１０のメインキーによって操作されるキーシリンダー４２ａを備える。キーシリンダー４２ａによるロックが解除されると、サイドカバー４２を開けることが可能となり、乗員は、上記小物入れにアクセス可能となる。
鞍乗り型車両１０は、駐車時に鞍乗り型車両１０を直立状態に支持するセンタースタンド４５を備える。
【００１８】
鞍乗り型車両１０は、シート１７の少なくとも一部を外側から覆うシートカウル５０を、シート１７の後方に備える。シートカウル５０の内側には物品４６（図６、図７）等を収納可能である。シートカウル５０は、リアフレーム２０に取り付けられる。シートカウル５０は、リアフレーム２０及びリアフェンダー２７の上方に配置される。
シート１７は、一人乗り用のシートである。シート１７及びシートカウル５０に替えて、シート１７よりも後方に延びる二人乗り用のシートをリアフレーム２０に取り付けることも可能である。
【００１９】
図３は、シート１７の後部及びシートカウル５０の左側面図である。図４は、シート１７及びシートカウル５０を上方から見た平面図である。図５は、シートカウル５０の分解斜視図である。図６は、図４のＶＩ－ＶＩ断面図である。
シート１７は、クッション材１７ａ（図６）とクッション材１７ａを下方から支持するシート底板１７ｂと、クッション材１７ａを覆うシート表皮１７ｃとを備える。
シートカウル５０は、シート１７の後面であるシート後面１７ｄ（後面）に後方から近接するように配置される。
【００２０】
シートカウル５０は、車体に取り付けられるベース部５１と、ベース部５１を上方から覆うカウル部５２とを備える。
また、リアフレーム２０には、ベース部５１を支持する左右一対のブラケット５３（車体）が取り付けられる。ブラケット５３は、シート１７の後方に設けられる。
【００２１】
ブラケット５３は、板状の前側固定部５３ａと、前側固定部５３ａの後方に位置する板状の後側固定部５３ｂと、前側固定部５３ａと後側固定部５３ｂとを前後に接続する取っ手状の前後接続部５３ｃとを備える。
ブラケット５３は、前側固定部５３ａ及び後側固定部５３ｂにそれぞれ車幅方向外側から挿通されるブラケット締結具５４によって、リアフレーム２０の外側面に固定される。一方のブラケット５３は、リアフレーム２０の後部の左側面に締結され、他方のブラケット５３は、リアフレーム２０の後部の右側面に締結される。
【００２２】
また、ブラケット５３は、前側固定部５３ａの上端から車幅方向外側に延出する前側支持部５３ｄと、後側固定部５３ｂの上端から車幅方向内側に延出する後側支持部５３ｅとを備える。
前側支持部５３ｄ及び後側支持部５３ｅは、前後接続部５３ｃの上方に位置する。前後接続部５３ｃは、乗員がセンタースタンド４５によって鞍乗り型車両１０を駐車する際等に乗員が把持する把持部として機能する。
ブラケット５３は、車体フレーム１１のリアフレーム２０に取り付けられており、車体の一部を構成する。
【００２３】
図７は、図４のＶＩＩ－ＶＩＩ断面図である。図８は、カウル部５２を不図示にした状態でシート１７及びベース部５１を上方から見た平面図である。
図３～図８を参照し、ベース部５１は、ブラケット５３に上方から取り付けられてシー

ト１７の後方に位置し、リアフレーム２０及びリアフェンダー２７を上方から覆う。
【００２４】
ベース部５１は、板厚方向を上下方向に指向させて配置される底壁５５を備える。底壁５５は、図８のように上方からの平面視では、後方に向けて先細りとなる台形状であり、ベース部５１の左右方向の幅は、後方に向かうに従って小さくなる。底壁５５は、車両側面視で、シートフレーム３５に沿うように後上がりに傾斜している。
底壁５５の前縁部は、平面視では、シート後面１７ｄに沿うように、後方に凹となるように全体的に湾曲している。また、底壁５５の後縁部は、平面視では、後方に凸となるように全体的に湾曲している。
【００２５】
ベース部５１は、底壁５５の前縁部から上方に延出するベース部前壁５６と、底壁５５の左右の側縁部及び後縁部から上方に延出する外側リブ５７とを備える。
詳細には、外側リブ５７は、底壁５５の左右の側縁部から上方に延出する左右一対の側縁リブ５７ａと、底壁５５の後縁部から上方に延出する後縁リブ５７ｂとを備える。
【００２６】
また、ベース部５１は、底壁５５から上方に延出して収納部５８を区画するリブ部６０を備える。リブ部６０は、底壁５５の車幅方向の中央部に設けられる。リブ部６０は、左右の側縁リブ５７ａの間、且つ、ベース部前壁５６と後縁リブ５７ｂとの間に位置する。
【００２７】
リブ部６０は、車両前後方向に延びて収納部５８を左右方向に区画する左右一対の側壁６１と、収納部５８を前方から区画する前壁６２と、収納部５８を後方から区画する後壁６３とを備える。
側壁６１は、底壁５５から上方に延出する。左右の側壁６１の左右方向の間隔は、後方に向かうに従って小さくなる。
【００２８】
前壁６２は、左右方向に延びて左右の側壁６１の前端を左右方向に接続する。詳細には、前壁６２は、ベース部前壁５６における左右方向の中間部によって構成される。すなわち、前壁６２は、ベース部前壁５６の一部である。
後壁６３は、後縁リブ５７ｂの前方で底壁５５から上方に延出する。後壁６３は、左右方向に延びて左右の側壁６１の後端を左右方向に接続する。
収納部５８は、底壁５５上において、左右の側壁６１、前壁６２、及び後壁６３によって囲まれた部屋である。収納部５８の上面は上方に開口する。
【００２９】
収納部５８内には、底壁５５から上方に延びる仕切り壁５８ａが設けられる。仕切り壁５８ａは、一方の側壁６１に沿って前後方向に延びる。
収納部５８には、物品４６が収納される。収納部５８において仕切り壁５８ａと側壁６１との間には、第２の物品４７が収納される。
物品４６は、例えば、有料道路の電子料金収受システムの車載器である。第２の物品４７は、例えば、車載工具である。収納部５８には、物品４６及び第２の物品４７に追加または交換して、他の物品を収納可能である。
【００３０】
ベース部５１は、底壁５５がブラケット５３の前側支持部５３ｄ（図５）及び後側支持部５３ｅ（図５）上に載置され、前側支持部５３ｄ及び後側支持部５３ｅに締結される。
詳細には、底壁５５は、底壁５５の前部に上方から挿通される左右一対の前側締結具６５（締結具）によって、前側支持部５３ｄに締結される。また、底壁５５は、底壁５５の後部に上方から挿通される左右一対の後側締結具６６（締結具）によって、後側支持部５３ｅに締結される。
前側締結具６５及び後側締結具６６は、リブ部６０の側壁６１と側縁リブ５７ａとの間に設けられる。すなわち、前側締結具６５及び後側締結具６６は、底壁５５上において収納部５８の外側に配置される。

【００３１】
底壁５５において後縁リブ５７ｂとリブ部６０の後壁６３との間には、カウル部５２が嵌合する嵌合部６８が設けられる。すなわち、嵌合部６８は、底壁５５上において収納部５８の外側に配置される。
嵌合部６８は、底壁５５を上下に貫通する筒状部材であり、カウル部５２は、この筒状部材の内周部に嵌合する。この筒状部材は、例えばゴム製である。
【００３２】
外側リブ５７の外側面には、外側リブ５７の上端部に対し下方の位置から外側に突出する段部５７ｃが設けられる。段部５７ｃは、左右の側縁リブ５７ａ及び後縁リブ５７ｂの外側面に設けられる。
【００３３】
左右の側縁リブ５７ａの前端部には、前側締結部６９がそれぞれ設けられる。前側締結部６９には、カウル部５２をベース部５１に締結する前側カウル締結具７０が車幅方向外側から締結される。前側締結部６９は、前側締結具６５の前方に位置する。
前側締結部６９は、例えば、側縁リブ５７ａに取り付けられるクリップナットである。
【００３４】
図３、図７及び図８を参照し、ベース部５１の前後の中間部には、底壁５５から下方に延出する左右締結部７１が左右一対設けられる。左右締結部７１は、左右締結部７１を左右方向に貫通する固定孔７１ａを備える。左右締結部７１は、左右方向において、リブ部６０と側縁リブ５７ａとの間に設けられる。左右締結部７１は、前側締結部６９の後方に位置する。
固定孔７１ａには、カウル部５２をベース部５１に締結する後側カウル締結具７２が車幅方向外側から挿通される。
底壁５５には、左右締結部７１に隣接して左右締結部７１の車幅方向内側の位置に、底壁５５を上下に貫通する通し孔７３が設けられる。
【００３５】
図３～図８を参照し、カウル部５２は、上方からの平面視においてベース部５１の全体を上方から覆う大きさのカバー部材である。カウル部５２は、シート１７の後端部を車幅方向外側から覆う。
カウル部５２は、ベース部５１を上方から覆うカウル上面部８０（カウル部の上面）と、カウル上面部８０の左右の側縁から下方に延びる左右一対のカウル側面部８１と、カウル上面部８０の前縁から下方に延出するカウル前面部８２と、カウル上面部８０の後縁から下方に延出するカウル後面部８３とを一体に備える。
【００３６】
カウル上面部８０は、図４のように上方からの平面視では、後方に向けて先細りとなる台形状であり、カウル上面部８０の左右方向の幅は、後方に向かうに従って小さくなる。
カウル上面部８０の前縁は、平面視では、シート後面１７ｄに沿うように、後方に凹となるように全体的に湾曲している。また、カウル上面部８０の後縁は、平面視では、後方に凸となるように全体的に湾曲している。
【００３７】
カウル上面部８０は、車両側面視では、後下がりに傾斜している。カウル上面部８０の左右方向の中央部８０ａは、車両側面視で、全体が後下がりに傾斜している。
カウル上面部８０の左右の側部８０ｂは、中央部８０ａから車幅方向外側に向かうに従って下方に位置するように傾斜している。カウル上面部８０の左右の中央部は、図７の断面視では、上方に凸の曲面状である。
【００３８】
左右のカウル側面部８１は、側部８０ｂの側縁から下方に延び、ベース部５１の側縁リブ５７ａを車幅方向外側から覆う。
カウル後面部８３は、ベース部５１の後縁リブ５７ｂを後方から覆う。
カウル前面部８２は、カウル上面部８０の前縁から前下がりに延びる傾斜面である。カ

ウル前面部８２は、ベース部前壁５６の上部を前方から覆う。

【００３９】

図６を参照し、カウル部５２は、カウル上面部８０の内面８０ｃから下方に延出する嵌合突出部８４を、カウル部５２の後端部に備える。カウル部５２の後端部は、嵌合突出部８４がベース部５１の嵌合部６８に上方から嵌合することで、ベース部５１に固定される。

【００４０】

図３、図５及び図８を参照し、カウル側面部８１の前端部は、側縁リブ５７ａの前端部を車幅方向外側から覆う。カウル部５２の前部は、カウル側面部８１の前端部の孔に車幅方向外側から挿通される前側カウル締結具７０によって、前側締結部６９に固定される。前側カウル締結具７０は例えばボルトである。

【００４１】

図３、図５、図７及び図８を参照し、カウル部５２は、内面８０ｃにおける側部８０ｂの部分から下方に延出する固定片８５を左右一対備える。固定片８５は、カウル部５２の前後の中間部に設けられる。

固定片８５は、通し孔７３に上方から挿通され、ベース部５１の左右締結部７１に車幅方向内側から挿通される。

カウル部５２の前後の中間部は、左右締結部７１の固定孔７１ａ及び固定片８５の孔に車幅方向外側から挿通される後側カウル締結具７２によって、左右締結部７１に固定される。後側カウル締結具７２は、例えばピン状のクリップである。

左右締結部７１では、カウル部５２とベース部５１とが左右方向に締結される。

【００４２】

図３及び図５～図８を参照し、カウル部５２がベース部５１に取り付けられた状態では、カウル部５２の下縁部８６は、ベース部５１の外側リブ５７を外側から覆う。ここで、下縁部８６は、カウル側面部８１の下縁部及びカウル後面部８３の下縁部である。

詳細には、下縁部８６は、側縁リブ５７ａの上端部を車幅方向外側から覆い、後縁リブ５７ｂの上端部を後方から覆う。また、下縁部８６の下端面は、段部５７ｃの上面に上方から対向している。これにより、下縁部８６と外側リブ５７との間にラビリンス構造が形成されるため、下縁部８６と外側リブ５７との間からカウル部５２の内側に水が入ることが抑制される。

【００４３】

図５～図８を参照し、ベース部前壁５６は、底壁５５の前縁部から前上方に斜めに延びる傾斜部５６ａと、傾斜部５６ａの上端から略鉛直に上方へ延びる鉛直部５６ｂとを備える。ベース部前壁５６の上縁５６ｃは、シート後面１７ｄの上端１７ｅよりも上方に位置する。

リブ部６０の前壁６２はベース部前壁５６の一部であるため、前壁６２は、傾斜部５６ａ及び鉛直部５６ｂを備える。

リブ部６０の後壁６３は前壁６２よりも低い壁であり、後壁６３の上縁６３ａは、上縁５６ｃよりも下方に位置する。

【００４４】

リブ部６０の各側壁６１は、車両前後後方に延びて、前壁６２と後壁６３とを接続する。

シートカウル５０を鞍乗り型車両１０に搭載した状態において、側壁６１の上縁６１ａは、車両側面視で、ベース部前壁５６の上縁５６ｃからやや後上がりの姿勢で後方に延びる。また、側壁６１の上縁６１ａは、車両側面視で、側壁６１の前後の中間部で下方に屈曲し、後下がりの姿勢で後方に延びて後壁６３の上縁６３ａに接続される。

すなわち、車両側面視において、上縁６１ａの前部は、後上がりに延びる後上がり部６１ｂであり、上縁６１ａの後部は、後下がりに延びる後下がり部６１ｃである。

【００４５】

リブ部６０は、カウル部５２によって上方から覆われており、リブ部６０によって区画される収納部５８はカウル部５２の内側に位置する。

左右の側壁６１の上縁６１ａは、カウル上面部８０によって上方から覆われる。

上縁６１ａの後上がり部６１ｂ及び後下がり部６１ｃは、カウル上面部８０の内面８０ｃに対し下方に離間しており、内面８０ｃに接触しない。
後下がり部６１ｃは、後下がりの内面８０ｃに沿って後下がりに形成されている。
【００４６】
鞍乗り型車両１０は、シートカウル５０のカウル上面部８０が後下がりであるため、走行風は、カウル上面部８０に沿ってスムーズに後方に流れる。このため、シートカウル５０による空気抵抗を低減でき、鞍乗り型車両１０の空力特性が良い。
収納部５８に収納される物品は、左右の側壁６１によって左右方向に支持されることができ、前壁６２及び後壁６３によって車両前後方向に支持されることができる。このため、物品を収納部５８によって良好に支持できる。
【００４７】
シートカウル５０では、側壁６１の上縁６１ａの位置は、収納部５８の最大積載量を示す。側壁６１の上縁６１ａの位置が収納部５８の最大積載量の目安となることは、例えばシートカウル５０についての説明書に記載される。
乗員等は、カウル部５２が取り外された状態で、側壁６１の上縁６１ａの位置を目安にして、上縁６１ａの高さ位置まで収納部５８に物品を収納することができる。その後、乗員等は、カウル部５２をベース部５１に取り付ける。
シートカウル５０では、上縁６１ａの位置を目安にすることで、収納部５８の物品が高さ的に過積載になることが抑制されるため、物品がカウル部５２の取り付けの邪魔になることが抑制され、カウル部５２を良好にベース部５１に取り付けできる。
シートカウル５０では、カウル上面部８０が後下がりに傾斜しているため、収納部５８の高さ方向の最大積載量が分かり難いが、後下がり部６１ｃの上縁６１ａを目安とすることで、最大積載量が分かり易くなる。
【００４８】
また、側壁６１の上縁６１ａがカウル上面部８０の内面８０ｃに対し下方に離間しているため、上縁６１ａの位置を若干超えて収納部５８に物品を収納した場合であっても、カウル部５２を良好にベース部５１に取り付けできる。
【００４９】
図７を参照し、リブ部６０の後壁６３の上縁６３ａは、カウル上面部８０の内面８０ｃに沿って上方に凸となる曲線状に形成されている。すなわち、上縁６３ａは、車幅方向に延びるアーチ状に形成されている。シートカウル５０では、後壁６３の上縁６３ａの位置は、収納部５８の後端部における最大積載量を示す。後壁６３の上縁６３ａの位置が収納部５８の最大積載量の目安となることは、例えばシートカウル５０についての説明書に記載される。
シートカウル５０では、上縁６３ａがアーチ状であるため積載量を大きく確保できるとともに、上縁６３ａの位置を目安にすることで、収納部５８の物品が高さ的に過積載になることが抑制されるため、物品がカウル部５２の取り付けの邪魔になることが抑制され、カウル部５２を良好にベース部５１に取り付けできる。
また、後壁６３の上縁６３ａがカウル上面部８０の内面８０ｃに対し下方に離間しているため、上縁６３ａの位置を若干超えて収納部５８に物品を収納した場合であっても、カウル部５２を良好にベース部５１に取り付けできる。
なお、上縁６３ａは、少なくとも一部が内面８０ｃに沿ってアーチ状に形成されていれば良い。
【００５０】
図６を参照し、リアフレーム２０（図２）のクロスメンバー３９には、シート１７の後端部が固定されるシートステー４３が設けられる。シートステー４３は、クロスメンバー３９の上面から後上方に延びる。
シート１７は、シート１７の後部の下面からシート後面１７ｄの後方に延出する取付部１７ｆを備える。取付部１７ｆは、取付部１７ｆに上方から挿通されるシート締結具１７ｇによって、シートステー４３に固定される。

ベース部５１の底壁５５の前部は、シート締結具１７ｇ及び取付部１７ｆを上方から覆う。これにより、シート締結具１７ｇ及び取付部１７ｆを底壁５５によって隠すことができ、外観性が良い。

【００５１】

図６を参照し、ベース部前壁５６は、シート後面１７ｄに後方から近接する。ベース部前壁５６の傾斜部５６ａは、前上がりに傾斜するシート後面１７ｄに沿って前上がりに延びる。

カウル前面部８２の下端部は、シート後面１７ｄの後方でベース部前壁５６の上部に前方から重なる。カウル前面部８２の下端部は、ベース部前壁５６の上部に対し前方に離間している。

カウル前面部８２の下縁８２ａは、シート後面１７ｄの上端１７ｅより下方に位置するとともに、シート後面１７ｄに対し上方及び後方に離間している。

カウル前面部８２の下端部の近傍では、上端１７ｅと、上端１７ｅより下方に位置する下縁８２ａと、下縁８２ａより上方に位置する上縁５６ｃとによってラビリンス構造が形成される。これにより、シートカウル５０の前面の防水性を向上できる。

【００５２】

図９は、図６においてシート後面１７ｄに対しシートカウル５０が近接する部分を拡大した断面図である。

ベース部前壁５６の傾斜部５６ａとシート後面１７ｄとの距離Ｌ１は、カウル前面部８２の前縁８２ｂとシート後面１７ｄとの距離Ｌ２よりも小さい。ここで、距離Ｌ１は、傾斜部５６ａの高さ方向の全体に亘って略一定である。また、前縁８２ｂは、カウル前面部８２の下端の前縁である。

【００５３】

例えば、乗員がシート１７に着座すること等によってシート１７が変形する場合、シート後面１７ｄは後方に変位する。鞍乗り型車両１０では、距離Ｌ１が距離Ｌ２よりも小さいため、シート後面１７ｄが後方に変位した場合、シート後面１７ｄは、カウル前面部８２の前縁８２ｂよりも先に傾斜部５６ａの前面に接触する。このため、カウル前面部８２の前縁８２ｂがシート後面１７ｄに強く接触することが抑制され、シート後面１７ｄ及び前縁８２ｂの傷の発生を抑制できる。

傾斜部５６ａは、カウル前面部８２の下方で入り組んだ場所に位置するため、外側から視認され難い。これに対し、カウル前面部８２の前縁８２ｂは、外側に露出するため、例えば前縁８２ｂの塗装に傷が付くと、傷が目立ち易い。本実施の形態では、前縁８２ｂの傷の発生を抑制できる。

【００５４】

以上説明したように、本発明を適用した実施の形態によれば、収納部構造は、鞍乗り型車両１０の乗員用のシート１７の後方に設けられるシートカウル５０と、シートカウル５０の内側に設けられる収納部５８とを備え、車両側面視でシートカウル５０が後下がりに傾斜し、シートカウル５０は、車体であるブラケット５３に取り付けられるベース部５１と、ベース部５１を上方から覆うカウル部５２とを備える。ベース部５１は、底壁５５と、底壁５５から上方に延出して収納部５８を区画するリブ部６０とを備え、リブ部６０は、車両前後方向に延びて収納部５８を左右方向に区画する左右一対の側壁６１を少なくとも備え、車両側面視で、カウル部５２の上面であるカウル上面部８０は、後下がりに形成され、車両側面視で、側壁６１の上縁６１ａの少なくとも一部は、カウル上面部８０の内面８０ｃに沿って後下がりに形成されている。

この構成によれば、収納部５８は、底壁５５から上方に延出する左右一対の側壁６１によって、物品を保持できる。また、側壁６１の上縁６１ａがカウル上面部８０の内面８０ｃに沿って後下がりに形成されるため、側壁６１の上縁６１ａは、収納部５８の最大積載量の目安になり、カウル上面部８０が後下がりの場合であっても、最大積載量が分かり易い。このため、シートカウル５０の内側の収納部５８に物品を良好に保持でき、且つ、収納部５８に物品を収納し易くできる。

【００５５】
　また、側壁６１の上縁６１ａは、内面８０ｃに対し下方に離間している。
　この構成によれば、側壁６１の上縁６１ａが示す最大積載量に対し、積載量の余裕ができるため、収納部５８に物品を収納し易い。また、側壁６１の上縁６１ａと内面８０ｃとの接触を管理する必要が無いため、カウル部５２をベース部５１に組み付け易い。
【００５６】
　また、リブ部６０は、収納部５８を前方から区画する前壁６２と、収納部５８を後方から区画する後壁６３とを備える。
　この構成によれば、前壁６２、後壁６３、及び左右の側壁６１によって収納部５８が区画されるため、収納部５８に物品を良好に保持できる。
【００５７】
　また、後壁６３の上縁６３ａの少なくとも一部は、カウル上面部８０の内面８０ｃに沿ってアーチ状に形成されている。
　この構成によれば、リブ部６０の後壁６３の上縁６３ａを収納部５８の最大積載量の目安にでき、最大積載量が分かり易い。このため、シートカウル５０の内側の収納部５８に物品を良好に保持でき、且つ、収納部５８に物品を収納し易くできる。
【００５８】
　さらに、ベース部５１は、平面視においてリブ部６０の外側で底壁５５の側縁部及び後縁部から上方に延出する外側リブ５７を備え、カウル部５２の下縁部８６は、平面視において外側リブ５７の外側に位置し、外側リブ５７を外側から覆う。
　この構成によれば、外側リブ５７とカウル部５２の下縁部８６とによって形成されるラビリンス構造、及び底壁５５から上方に延出するリブ部６０によって、収納部５８の防水性を高くできる。
【００５９】
　また、ブラケット５３にベース部５１を固定する前側締結具６５及び後側締結具６６は、リブ部６０と外側リブ５７との間に配置される。
　この構成によれば、前側締結具６５及び後側締結具６６が収納部５８の外側に位置するため、前側締結具６５及び後側締結具６６は収納部５８に収納される物品の邪魔になり難い。このため、収納部５８に物品を収納し易い。
【００６０】
　また、ベース部５１は、シート１７の後面であるシート後面１７ｄに後方から対向するベース部前壁５６を備え、カウル部５２は、カウル上面部８０の前縁から下方に延出するカウル前面部８２を備え、カウル前面部８２は、シート後面１７ｄの後方で、ベース部前壁５６の上部に前方から重なり、カウル前面部８２の下縁８２ａは、シート後面１７ｄの上端１７ｅよりも下方に位置する。
　この構成によれば、シート後面１７ｄとカウル前面部８２の下縁８２ａとベース部前壁５６の上部とによってラビリンス構造が形成されるため、収納部５８の防水性を向上できる。
【００６１】
　また、ベース部前壁５６とシート後面１７ｄとの距離Ｌ１は、カウル前面部８２の前縁８２ｂとシート後面１７ｄとの距離Ｌ２よりも小さい。
　この構成によれば、乗員の着座等によってシート１７が大きく変形した場合には、シート後面１７ｄは、カウル前面部８２の前縁８２ｂよりも先にベース部前壁５６に当たる。これにより、シート後面１７ｄとカウル前面部８２の前縁８２ｂとの接触を抑制でき、シート後面１７ｄ及びカウル前面部８２の傷の発生を抑制できる。
【００６２】
　また、車両側面視で、ベース部５１の前後の中間部に、カウル部５２とベース部５１とを左右に締結する左右締結部７１が設けられる。
　この構成によれば、カウル部５２の後下がりの形状によって収納部５８の容量が小さくなって過積載になり易い部分を、左右締結部７１によって固定できるため、カウル部５２

を効果的に固定できる。

【００６３】

なお、上記実施の形態は本発明を適用した一態様を示すものであって、本発明は上記実施の形態に限定されるものではない。

上記実施の形態では、リブ部６０は、左右一対の側壁６１と、前壁６２と、後壁６３とを備えるものとして説明したが、本発明はこれに限定されず、リブ部６０は少なくとも左右一対の側壁６１を備えていれば良い。例えば、リブ部６０が後壁６３を備えない場合、カウル部５２の後部の内面によって物品を保持しても良い。

また、上記実施の形態では、後下がり部６１ｃは、上縁６１ａの後部に設けられているが、これに限らず、上縁６１ａの全体を後下がりに形成しても良い。

また、上記実施の形態では、左右締結部７１は、ベース部５１の前後の中間部に設けられるが、これに限らず、左右締結部７１は、ベース部５１の前後の中間部よりも後方に設けられても良い。

また、上記実施の形態では、自動二輪車である鞍乗り型車両１０に設けられる収納部構造を例に挙げて説明したが、本発明はこれに限定されるものではなく、収納部構造は、三輪の鞍乗り型車両、及び四輪以上を備える鞍乗り型車両に設けられても良い。

【００６４】

[上記実施の形態によりサポートされる構成]

上記実施の形態は、以下の構成をサポートする。

【００６５】

（構成１）鞍乗り型車両の乗員用のシートの後方に設けられるシートカウルと、前記シートカウルの内側に設けられる収納部とを備え、車両側面視で前記シートカウルが後下がりに傾斜している収納部構造において、前記シートカウルは、車体に取り付けられるベース部と、前記ベース部を上方から覆うカウル部とを備え、前記ベース部は、底壁と、前記底壁から上方に延出して前記収納部を区画するリブ部とを備え、前記リブ部は、車両前後方向に延びて前記収納部を左右方向に区画する左右一対の側壁を少なくとも備え、車両側面視で、前記カウル部の上面は、後下がりに形成され、車両側面視で、前記側壁の上縁の少なくとも一部は、前記上面の内面に沿って後下がりに形成されていることを特徴とする収納部構造。

この構成によれば、収納部は、底壁から上方に延出する左右一対の側壁によって、物品を保持できる。また、側壁の上縁がカウル部の上面の内面に沿って後下がりに形成されるため、側壁の上縁は、収納部の最大積載量の目安になり、カウル部の上面が後下がりの場合であっても、最大積載量が分かり易い。このため、シートカウルの内側の収納部に物品を良好に保持でき、且つ、収納部に物品を収納し易くできる。

【００６６】

（構成２）前記側壁の前記上縁は、前記内面に対し下方に離間していることを特徴とする構成１記載の収納部構造。

この構成によれば、側壁の上縁が示す最大積載量に対し、積載量の余裕ができるため、収納部に物品を収納し易い。また、側壁の上縁と内面との接触を管理する必要が無いため、カウル部をベース部に組み付け易い。

【００６７】

（構成３）前記リブ部は、前記収納部を前方から区画する前壁と、前記収納部を後方から区画する後壁とを備えることを特徴とする構成１または２記載の収納部構造。

この構成によれば、前壁、後壁、及び左右の側壁によって収納部が区画されるため、収納部に物品を良好に保持できる。

【００６８】

（構成４）前記後壁の上縁の少なくとも一部は、前記上面の前記内面に沿ってアーチ状に形成されていることを特徴とする構成３記載の収納部構造。

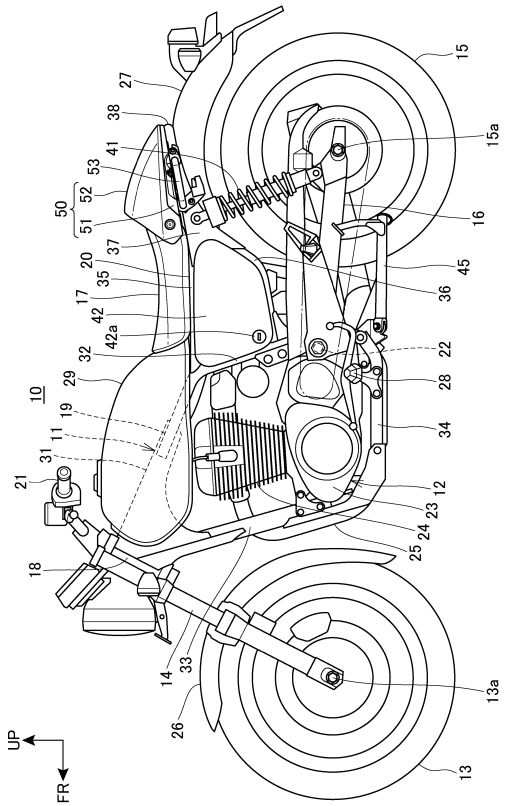
この構成によれば、リブ部の後壁の上縁を収納部の最大積載量の目安にでき、最大積載量が分かり易い。このため、シートカウルの内側の収納部に物品を良好に保持でき、且つ

、収納部に物品を収納し易くできる。
【００６９】
（構成５）前記ベース部は、平面視において前記リブ部の外側で前記底壁の側縁部及び後縁部から上方に延出する外側リブを備え、前記カウル部の下縁部は、平面視において前記外側リブの外側に位置し、前記外側リブを外側から覆うことを特徴とする構成１から４のいずれかに記載の収納部構造。
この構成によれば、外側リブとカウル部の下縁部とによって形成されるラビリンス構造、及び底壁から上方に延出するリブ部によって、収納部の防水性を高くできる。
【００７０】
（構成６）前記車体に前記ベース部を固定する締結具は、前記リブ部と前記外側リブとの間に配置されることを特徴とする構成５記載の収納部構造。
この構成によれば、締結具が収納部の外側に位置するため、締結具は収納部に収納される物品の邪魔になり難い。このため、収納部に物品を収納し易い。
【００７１】
（構成７）前記ベース部は、前記シートの後面に後方から対向するベース部前壁を備え、前記カウル部は、前記上面の前縁から下方に延出するカウル前面部を備え、前記カウル前面部は、前記後面の後方で、前記ベース部前壁の上部に前方から重なり、前記カウル前面部の下縁は、前記後面の上端よりも下方に位置することを特徴とする構成１から６のいずれかに記載の収納部構造。
この構成によれば、シートの後面とカウル前面部の下縁とベース部前壁の上部とによってラビリンス構造が形成されるため、収納部の防水性を向上できる。
【００７２】
（構成８）前記ベース部前壁と前記後面との距離は、前記カウル前面部の前縁と前記後面との距離よりも小さいことを特徴とする構成７記載の収納部構造。
この構成によれば、乗員の着座等によってシートが大きく変形した場合には、シートの後面は、カウル前面部の前縁よりも先にベース部前壁に当たる。これにより、シートの後面とカウル前面部の前縁との接触を抑制でき、シートの後面及びカウル前面部の傷の発生を抑制できる。
【００７３】
（構成９）車両側面視で、前記ベース部の前後の中間部、または前記中間部よりも後方に、前記カウル部と前記ベース部とを左右に締結する左右締結部が設けられることを特徴とする構成１から８のいずれかに記載の収納部構造。
この構成によれば、カウル部の後下がりの形状によって収納部の容量が小さくなって過積載になり易い部分を、左右締結部によって固定できるため、カウル部を効果的に固定できる。
【符号の説明】
【００７４】
１０　鞍乗り型車両
１７　シート
１７ｄ　シート後面（後面）
１７ｅ　上端
５０　シートカウル
５１　ベース部
５２　カウル部
５３　ブラケット（車体）
５５　底壁
５６　ベース部前壁
５７　外側リブ
５８　収納部
６０　リブ部

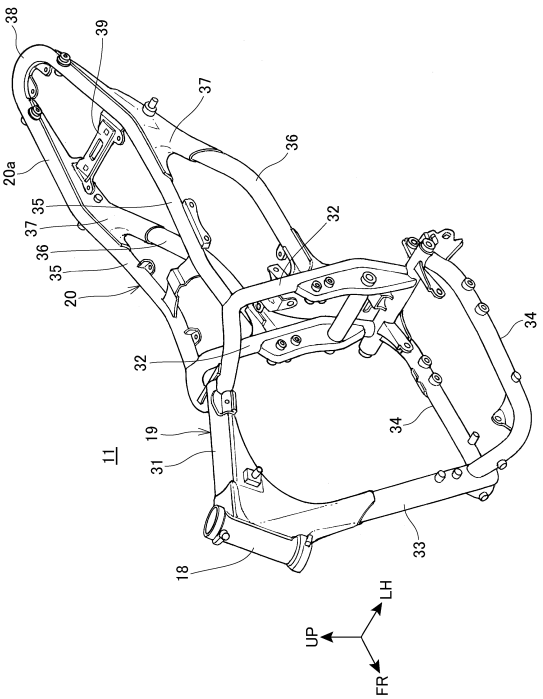
６１　側壁
６１ａ　上縁（側壁の上縁）
６２　前壁
６３　後壁
６３ａ　上縁（後壁の上縁）
６５　前側締結具（締結具）
６６　後側締結具（締結具）
７１　左右締結部
８０　カウル上面部（カウル部の上面）
８０ｃ　内面
８２　カウル前面部
８２ａ　下縁
８２ｂ　前縁
８６　下縁部
Ｌ１　距離（ベース部前壁と後面との距離）
Ｌ２　距離（カウル前面部の前縁と後面との距離）

【図面】

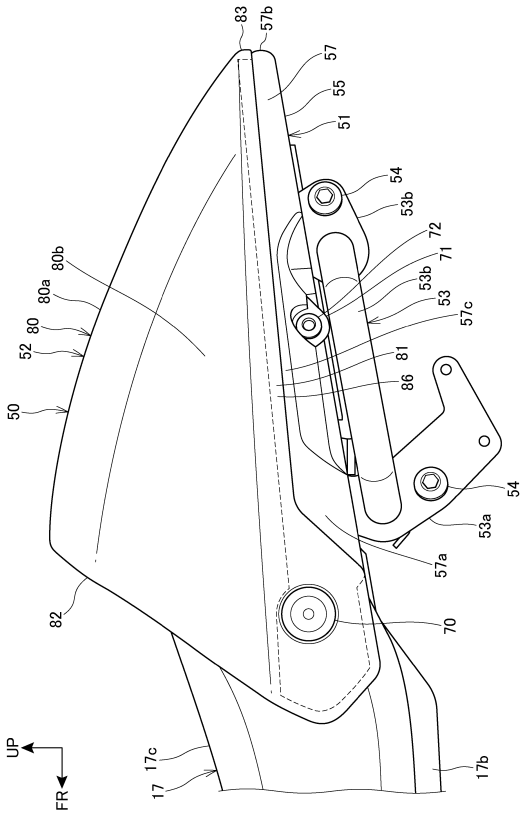
【図１】



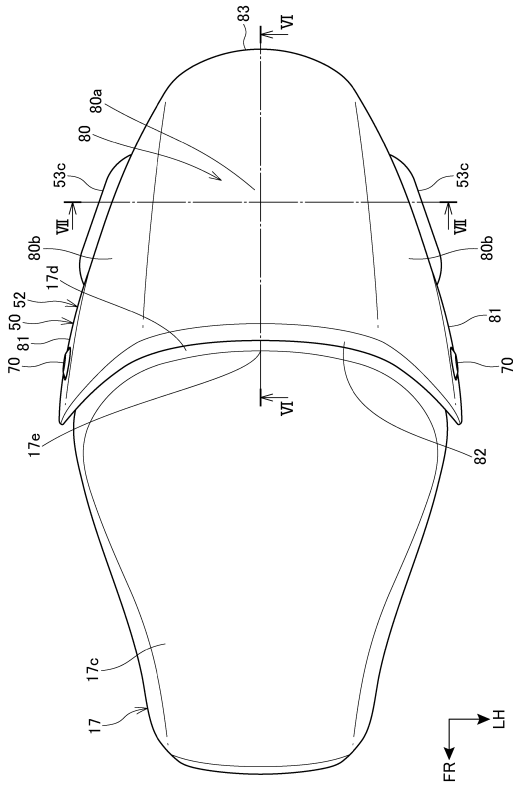
【図２】



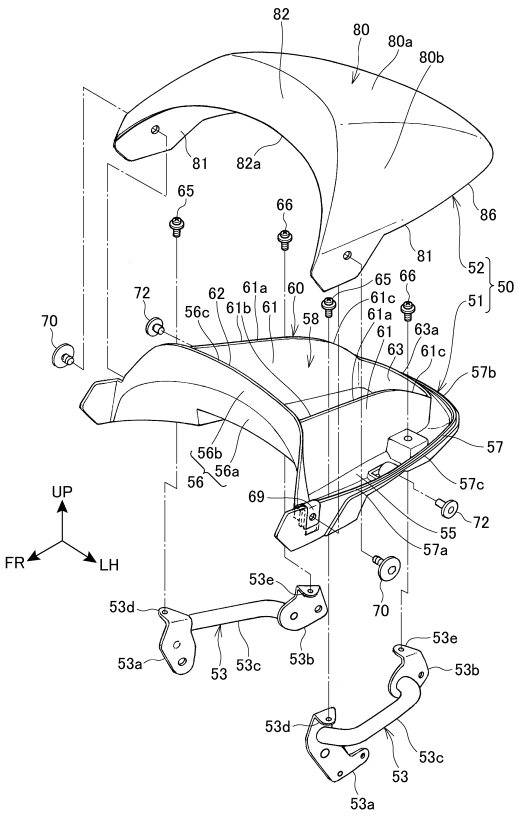
【図３】


83
57b
57
55
51
54
53b
72
71
53b
53
57c
81
86
80b
80a
80
52
50
82
70
54
53a
57a
17c
17
17b
UP
FR

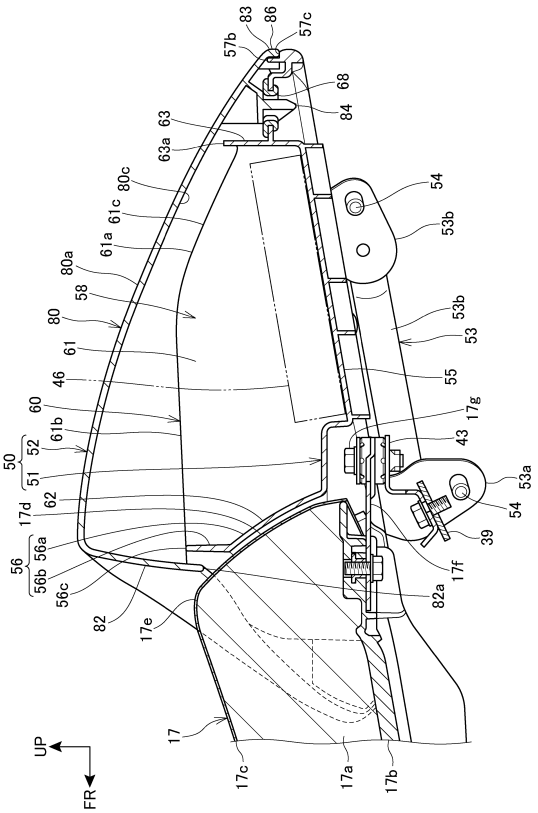
【図４】


83
VI
80a
80
53c
VII
80b
17d
52
50
81
70
17e
82
17c
17
LH
FR

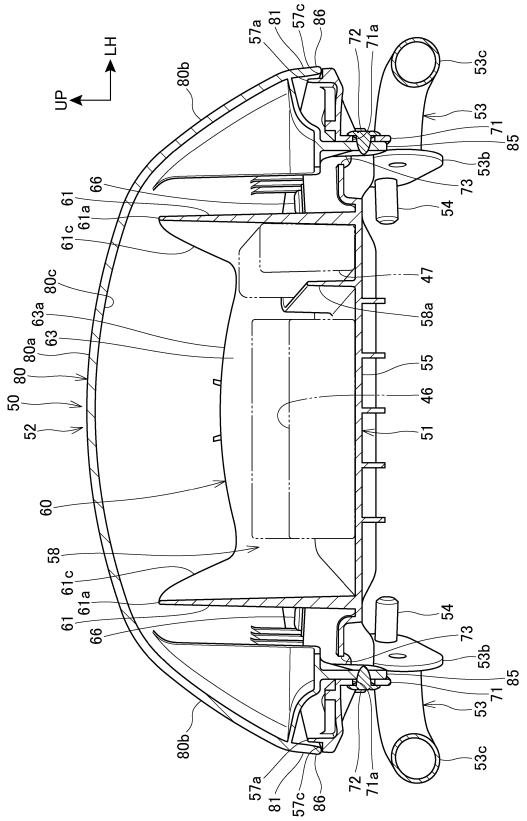
【図５】


82
80
80a
80b
81
82a
65
66
86
81
52
50
72
62
61a
60
61b
61
56c
58
65
66
61c
61a
51
70
61
63a
63
61c
57b
57
56b
56a
56
57c
69
72
55
57a
UP
FR
LH
53e
53d
70
53e
53a
53
53c
53b
53b
53d
53c
53
53a

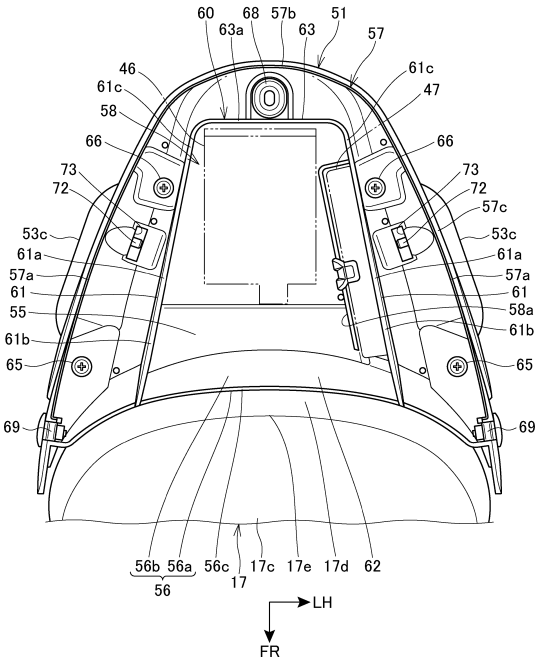
【図６】


83
86
57c
57b
68
84
63
63a
80c
54
61c
53b
61a
80a
58
53b
80
53
61
55
46
17g
60
43
61b
50
52
53a
51
54
62
39
17d
17f
56
56a
56b
56c
82a
82
17e
17
17c
17a
17b
UP
FR

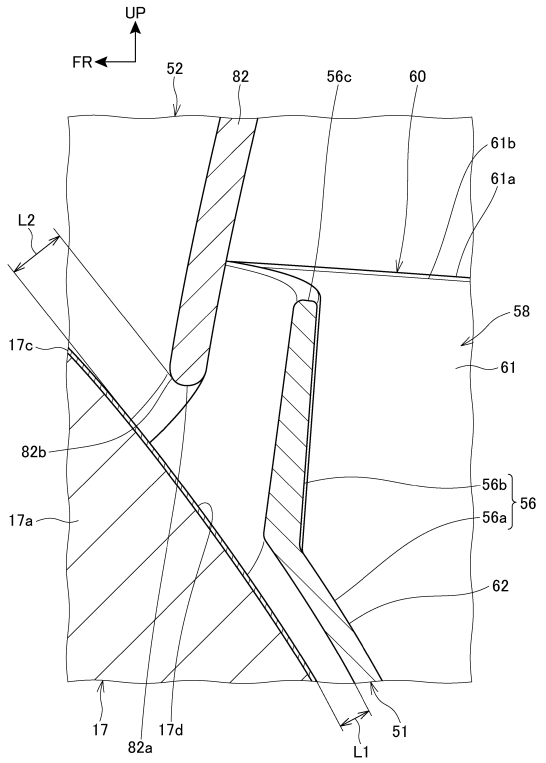
【図７】


UP
LH
80b
57a
81
57c
86
72
71a
53c
53
71
85
53b
73
54
66
61
61a
61c
80c
63a
63
80a
80
50
52
60
58
47
58a
55
46
51

【図８】


60
68
57b
51
63a
63
57
46
61c
47
58
66
73
72
57c
53c
61a
57a
61
55
58a
61b
65
69
56b
56a
56
56c
17
17c
17e
17d
62
LH
FR

【図９】


UP
FR
52
82
56c
60
61b
61a
L2
58
17c
61
82b
56b
56
56a
17a
62
17
82a
17d
51
L1

フロントページの続き

(56)参考文献　特開昭５７－９５２７８（ＪＰ，Ａ）
特開平７－４７９８５（ＪＰ，Ａ）
実開昭６２－２８６８４（ＪＰ，Ｕ）
特開２０１９－９９１１６（ＪＰ，Ａ）
特開２０１０－６４６２４（ＪＰ，Ａ）
韓国公開特許第１０－２００４－０１０５９８８（ＫＲ，Ａ）

(58)調査した分野　(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ｂ６２Ｊ　９／１０
Ｂ６２Ｊ　２３／００
Ｂ６２Ｊ　１７／００